



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/20 (月)	トン	+ 82,400	+ 82,400	国庫短期証券 発行・償還 (3M・1Y) 大量償還・利払い	国債補充供給 + 50,000 CP等買入 ▲ 100 社債等買入 ▲ 400		日：日銀の新副総裁に内田、氷見野両氏が就任 金融政策決定会合における主な意見 (3月9・10日分)
3/21 (火)					春分の日		米：FOMC (1日目)
3/22 (水)	トン	+ 2,000	+ 2,000		共通担保 ▲ 6,500 社債等買入 + 1,000		米：FOMC (2日目) I-0圏：ECB総裁、講演
3/23 (木)	▲ 2,000	+ 4,000	+ 2,000				I-0圏：消費者信頼感指数 (3月)
3/24 (金)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000	流動性供給			日：全国CPI (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初522兆400億円から始まった。その後国債買入オペや国債発行があったものの大きな変動はなく526兆1,900億円で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.033%から始まり、15日には着地に向けた調達ニーズの高まりから▲0.023%まで上昇した。3月積み期初日となる16日は▲0.021%から始まった。週末3日積みとなる17日は地銀業態の調達ニーズが強く▲0.016%まで上昇し越週した。
ターム物は月内エンドとなる1~2W物を中心に、▲0.020%~▲0.005%の水準で出合いが見られた。
先週末に米国の中堅銀行が破綻したことで、金融システム懸念が生じたが、日本の短期金融市場への影響は限定的であった。
来週の主な予定は、内田眞一氏及び氷見野良三氏が日銀の副総裁に就任 (20日)、2月の全国CPI (24日)、海外ではFOMC (21日・22日) がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許TNGCは週初▲0.10%の出合いから始まり、週を通して▲0.10%~▲0.08%のレンジで推移した。新積み期入りする15日の取引でも水準に変化は見られなかった。
SC取引は2年435~444回債、5年146~155回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額 (約9,400億円) を上回った。発行市場は、小売や電気機器、海運等の幅広い業態で大型案件が見られ、活況なマーケットとなった。発行残高は先週末の26兆7,242億円から16日時点で27兆370億円と増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。一方で、発行残高が積み上がっている銘柄や期間の長い発行等を中心にややレートの上昇も見られた。
来週の週間償還額は、約9,800億円となっている。発行市場は、決算期末に向けた有利子負債圧縮のため、償還超となると思われる。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

3月16日の1Y (1145回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1112% (前回債▲0.0859%)、平均落札利回り▲0.1251% (前回債▲0.0959%) となった。
3月17日の3M (1146回債) の入札は、最高落札利回り▲0.2214% (前回債▲0.1619%)、平均落札利回り▲0.2437% (前回債▲0.1980%) となった。
来週は3月24日に3Mの入札が予定されている。